



第2回防災ボランティア実践研修会を開催

2月1日(土)、日頃から赤十字の活動にご協力いただいているボランティアの方々を対象に、「令和元年度第2回赤十字防災ボランティア実践研修会」を開催しました。本研修会では、「避難所で役立つ段ボール活用術」というテーマで、ベッドやトイレ、パーテーションを作りました。また、新聞紙で作ったスリッパも好評でした。参加者からは「スリッパやトイレなど具体的な物が作れて、いざという時の参考になった。」「このような研修会がないと、なかなか取り組む機会がないので、とても貴重な体験でした。」などの感想をいただきました。また、普段は異なる活動をしているボランティアの皆さんが、グループワークに一生懸命取り組んだことにより、連帯感が高まったようでした。防災ボランティアになって活動してみたい! という方は、奉仕課まで(078-241-8922)ご連絡ください。



和気あいあいと作業するボランティアの皆さん



寝心地はいかがですか(*^^*)v



令和元年度第2回評議員会を開催

2月19日(水)、令和元年度第2回評議員会を開催しました。開催にあたり井戸支部長から「兵庫県支部は今年、明治23年(1890年)に開設してから、創立130周年を迎えます。そこで、来る11月30日、神戸ポートピアホテルにて赤十字関係者をお招きし、赤十字事業の発展にご尽力いただきました個人・法人の皆様への表彰や青少年赤十字加盟校による記念公演と活動報告を披露するなどの記念式典を開催する予定です。日本赤十字社兵庫県支部は、これからも大震災の経験と教訓を広く発信し、次の大災害への備えや対策の充実につながる事業を展開していく所存でございます。日ごろの皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、あらためて赤十字に対するご理解とご支援をお願いいたします。」と挨拶しました。令和元年度の事業進捗状況報告に続き、令和2年度事業計画と歳入歳出予算について審議が行われ、承認されました。



挨拶する井戸支部長

遺言・相続財産・お香典等のご協力について

「自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」といったご相談や、大切な方を亡くされたご遺族から、「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」というお申し出が増えています。日本赤十字社では、このような尊いご意思に応えるために、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っております。

お問い合わせは☎078-241-8921(振興課)まで



応募者プレゼント

日本赤十字社兵庫県支部の協賛企業、株式会社レーブドゥシェフ様より、「シェフの夢」を5名様に! たくさんのご応募、お待ちしております!

抽選で
5名様

社名 株式会社レーブドゥシェフ
レーブドゥシェフはお客様に「美味しいお菓子を食べてもらいたい」という気持ちから素材に対して謙虚かつ素材を超えた美味しさを追及しています。手間暇を惜しまずていねいに作り続けることで、神戸っ子に愛され続けて39年目。これからも手作りこだわりの、美味しく安心なお菓子をつくり続けます。

商品名 シェフの夢
レーブドゥシェフとはフランス語で「シェフの夢」ショップ名をそのままタイトルにした季節の焼き菓子を織りまぜながら詰め合わせた人気のギフトです。しっかりと吟味した卵やバター、フルーツなどを使って丁寧に焼いたクッキーと焼き菓子の詰合せです。



応募方法

①氏名②郵便番号③住所④性別⑤年齢⑥電話番号の本誌でよかつた記事(複数回答可)をメールまたははがきでご応募ください。抽選でプレゼントが当たります! ♪切りは2020年3月31日必着。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。※いただいた個人情報(プレゼントの発送および当支部からの連絡のみ)に使用します。
メール so-mu-ka9889@hyogo.jrc.or.jp ★件名に「応募者プレゼント」とご記入ください。
はがき 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5 日本赤十字社兵庫県支部 応募者プレゼント係



講習のご案内

救急法基礎講習 (1日の講習)	4月25日(土) 13:00~17:30 5月16日(土) 13:00~17:30 6月20日(土) 13:00~17:30
救急法救急員養成講習 (2日間の講習)	5月23日(土)・24日(日) 9:30~17:30
救急法基礎・救急員養成講習 (3日間の講習)	5月3日(日・祝)・4日(月・祝)・5日(火・祝) 9:30~17:30(初日は13:00~17:30) 6月21日(日)・27日(土)・28日(日) 9:30~17:30(初日は13:00~17:30)
水上安全法救助員I養成講習 (4日間の講習)	5月2日(土)基礎9:00~14:30 養成15:00~17:00 5月9日(土)・10日(日)・23日(土) 9:00~17:00(最終日は9:00~14:00) 場所:1日目 日本赤十字社兵庫県支部 2日目~4日目 ポートアイランドスポーツセンター
幼児安全法支援員養成講習 (2日間の講習)	5月9日(土)・10日(日) 9:30~17:30
健康生活支援講習支援員養成講習 (2日間の講習)	4月11日(土)・12日(日) 9:30~17:10(初日は9:30~16:30)

※申込期日は開催日(初日)の1ヵ月前までです。 ※年間の開催日程はホームページでご確認いただけます。

講習に関するお問い合わせは、お電話またはホームページで

Tel.078-241-1499

※隔月(奇数月)に発行しています。



兵庫県支部

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号 TEL.078-241-9889 FAX.078-241-6990

赤十字 兵庫 検索 http://www.hyogo.jrc.or.jp/

Japanese Red Cross Society Hyogo Chapter

ひょうごの
赤十字+

2020
3



Photo credit:JRC@DossaNazami

兵庫県支部のホームページをリニューアルしました!
URL <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>
Instagramとフェイスブックも運用開始しておりますので、どうぞお立ち寄りください!
QRコードはこちら



兵庫から世界へ

- 117を忘れない「ひょうご安全の日のつどい」
- 第2回防災ボランティア研修会を開催
- 「NHK海外たすけあい」のご報告
- 第2回評議員会を開催
- 南スーダン紛争犠牲者救援事業派遣報告
- 応募者プレゼント
- ドイツ赤十字社等へ職員を派遣
- バングラデシュ南部避難民支援事業視察報告

～阪神・淡路大震災から25年～ 1.17ひょうご安全の日のつどいに参加

1月17日(金)、神戸市中央区で開催された「ひょうご安全の日のつどい」に兵庫県支部も参加し、なぎさ公園では、兵庫県赤十字奉仕団の皆さんが野菜たっぷりの豚汁約600食を炊き出し「赤十字まごころサービス」として来場者に提供しました。また、防災訓練では、地震と津波が発生したという想定のもと、漂流者・負傷者を救助・搬送し、テント内で救護班が処置をするという流れを確認しました。

「1.17ひょうごメモリアルウォーク」の休憩地点となった兵庫県支部1階駐車場では、赤十字防災ボランティアの皆さんと温かいお味噌汁約1,000食を配布した他、昨年度に引き続き、ネスレ日本株式会社様にご協賛いただき、あまおう苺の「キットカット」と「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」によるコーヒーも合わせて提供させていただきました。

6,434人が亡くなられた阪神・淡路大震災から今年で25年が経ちました。兵庫県支部の職員も、当時、震災を経験した者、他県でニュースを見ていた者、まだ生まれていなかった者とさまざまですが、今後こういった大災害が起きた時には一人でも多くの人を救いたいという共通の思いで、訓練や研修に取り組んでいます。

ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。



お味噌汁を提供する赤十字防災ボランティアの皆さん



コーヒーを提供するネスレの皆さん



豚汁を提供する兵庫県赤十字奉仕団の皆さん



休憩所の様子



救急法ミニ講習



負傷者の対応をする神戸赤十字病院救護班



「NHK海外たすけあい」募金にご協力ありがとうございました!

世界各地の紛争や頻発する自然災害などに苦しむ人々を支援するため、今年度もNHKと共同で募金キャンペーン「海外たすけあい」を12月に実施し、兵庫県支部には合計5,263,085円の募金が寄せられました。ご協力いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。



街頭募金の様子



兵庫県赤十字奉仕団から神戸支部長へ募金を贈呈

お寄せいただいた募金をもとに日赤が支援を実施している国のひとつが、武力衝突など不安定な情勢が続くアフリカの南スーダン共和国です。姫路赤十字病院の津田香都看護師が、南スーダンのアコボ群へ小児科看護要員として約6ヵ月間派遣されました。

—姫路赤十字病院 津田香都看護師による ICRC南スーダン紛争犠牲者救援事業活動報告—

2019年7月から2020年1月まで6ヵ月間、アフリカ・南スーダンでICRC(赤十字国際委員会)での派遣を終えて帰国しました。南スーダンは世界で一番新しい国です。しかし長い紛争後で人や資源は不足し、インフラは整っていません。ICRCは薬などの医療にかかわるものをはじめ、さまざまな物資、病院設備などの支援だけでなく、地元の看護師や医療スタッフ、病院にかかわるスタッフに教育を提供しレベルアップを図ってきました。雨が降ると飛行機の離着陸ができないため必要な物資が届かなかったり、医療を提供しようとしても患者家族の理解が得られなかったり、と困難なこともたくさんありましたが少しずつ改善しています。

私はICRCの小児科看護要員として、南スーダンのアコボ郡病院(エチオピアとの国境近く)に世界各国から同じように派遣されてきた小児科医、外科医、一般医、麻酔科医、助産師、病棟看護師、手術室看護師などとともに働きながら、アコボ郡病院で働く看護師のレベルアップを図ってきました。アコボ郡病院は近隣地域の唯一の病院であり地元の人々から頼りにされ、働くモチベーションが高いスタッフと一緒に働くことができ、提供するばかりではなく彼女らからたくさんのことを学びました。アコボ郡病院のサポートはまだ必要でありICRCはサポートを継続しています。そして日本に帰ってきた今は、南スーダンの人々の環境が少しでもよくなることを祈ってやみません。



アコボの看護師へ研修を実施 © ICRC



低体温で入院してきた生後1か月の子供を診ている津田看護師 © ICRC

兵庫県災害医療センター大島主事、 災害医療システムを学ぶためドイツ赤十字社等を訪問

1月12日～18日、令和元年度日本赤十字社兵庫県支部管内施設事務系職員の海外派遣研修事業として、兵庫県災害医療センター事業課の大島主事が、ドイツ赤十字社とドイツ連邦内閣省、連邦技術救援隊を訪問しました。

私は昨年度の大阪北部地震や西日本豪雨災害で、災害医療の本部活動をさせていただいた経験から、他国の災害時の体制やロジスティクスについて学びたいと思い研修を希望しました。ドイツを選択した理由は、ドイツ赤十字社が国内外を含め医療部門だけでなくロジスティクスを行うための人員を積極的に派遣していること、また連邦技術救援隊のようにライフラインの整備やコーディネート業務、物資運搬など、日本ではまだまだ体制整備をする必要のある分野を行う専門の団体があるからでした。ドイツ赤十字社では、国内外の大規模・局地災害対応を中心に説明いただき、日本に比べて災害が少ない中でも物資をいつでも輸送できるような体制や、情報が混乱しないようにするための工夫などを知ることができました。研修全体を通して特に印象的だったのは、災害時のボランティアの活躍で、平時から訓練や研修をボランティアに対して積極的に行うことにより、各個人の得意分野を活かしながら多彩な活動ができることを学びました。今回ドイツで学んだことをそのまま日本で活かすことは難しいかもしれませんが、今まで自分にはなかった視点で学ぶことができたので、今後業務を行う上で非常に良い経験になったと思います。



ドイツ赤十字社員と



連邦技術救援隊にて



赤十字博物館にて

西村救護課主事、バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業を視察

日本赤十字社は、2017年8月にミャンマー・ラカイン州で発生した暴力行為を逃れ、隣国バングラデシュへ避難してきた人々を支援するため、同年9月から緊急支援を開始、2018年5月からは中期支援へ切り替わり、バングラデシュ赤新月社と共に、コックスバザールにて診療所の運営等を行っています。この事業を視察するため、兵庫県支部救護課の西村主事が、2月7日～15日に現地を訪れました。

避難民キャンプを訪れて、まず、キャンプ内で雑貨や食料品を購入できるお店があったことに驚きました。また、ちょっとした隙間を利用して畑を作るなど、ただ支援を受けるだけでなく力強く生きようとする人々の姿がそこにはありました。この地域は、元々サイクロンなど自然災害の影響を受けやすいことや、政治的な板挟みで帰りたいくても帰れない状況に加え、移動、物流、教育など様々な制限をかけられており、彼らの生活は、より一層過酷になっています。日本赤十字社は、現地の赤新月社を支援し、診療所での患者対応や母子保健の啓発、避難民の家庭を訪問して保健衛生活動やこころのケアを行っています。日本赤十字社が実施する国際救援事業のなかで、「アジア最大の人道危機」と評されているにも関わらず、支援が十分でないバングラデシュ南部避難民救援事業。今回の視察を通し、日本国内におけるさらなる啓発活動と、継続的な支援の必要性を強く感じました。



現地のスタッフとともに(西村主事は前列右から3番目)

いのちと健康を守る赤十字活動は
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。
活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます
〒 □座記号番号:01110-0-1136
□座加入者名:日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。